

# 北 玲児（きた・れいじ）

## 1、プロフィール

詩人。本名川村権一。昭和8年、詩誌第二次「北」、詩誌「府」に同人として参加し、詩を発表。「東奥日報」、「弘前新聞」にも詩を掲載、新進詩人として注目される。

<生没>

1915(大正4)年2月24日 ~ 1935(昭和10)年1月2日

<代表作>

詩「其の日」(第二次「北」3号)

詩「早春」(「府」4号)

<青森との関わり>

東津軽郡滝内村に生まれる。主に県内の詩誌、新聞に詩を発表、詩人として活動した。

## 2、作家解説

詩人。本名川村権一。大正4年東津軽郡滝内村に生まれる。川部小学校に入学。3年の時、弘前市立第二大成小学校に転校、昭和元年卒業する。昭和2年、県立弘前中学校に入学する。昭和5年、4年生の時に病気で休学し、昭和8年卒業する。在学中に詩作を始め、「校友会報」33号(昭和6年)・同34号(昭和7年)・35号(昭和7年)に詩を発表。7年頃より、「臘人形」・「暁星」らに投稿、翌8年1月「東奥日報」新年文芸懸賞詩1等入選、同月三上斎太郎・山田諒三郎・奈良武智夫・船水清らによって創刊された詩誌第二次「北」に同人として参加し、詩を発表する。第二次「北」は、4月に3号を出して、終刊となる。新進の詩人として評価注目されるようになる。「北」の延長として、12月一戸洋一・植木曜介・船水清によって創刊された詩誌「府」に同人として参加し、詩を発表する。「東奥日

報」・「弘前新聞」にも詩を発表、9年7月「東奥日報」『東奥文壇』の「詩特輯」に選ばれ、詩が掲載された。

翌10年1月2日、弘前市立弘前病院で紫斑病のために、19歳で死去した。詩人としての活動期間は短く、独自の詩才を十分に開花させることができなかった。その詩は、死への想念を通奏低音とした抒情を、超現実主義的詩法により表現している。

1ヵ月後、「弘前新聞」は「詩人北玲児君の追悼文」を特集し、一戸謙三・奈良武智夫・船水清らの追悼文が掲載された。

### 3、資料紹介

○「北」(第二次)3号

雑誌

1933(昭和8)年4月

265mm×195mm

詩誌。昭和8年4月1日発行。発行所(青森県詩人連盟 北発行所)。第二次「北」の終刊号。編集は中山寛一・三上斎太郎・山田諒三郎・船水清。代表詩の「其の日」が掲載されている。